

事後評価書

箇所名	庵座谷川		事業名	砂防事業	課名	防災砂防課																										
事業概要	工期 (下段当初)	平成13年～平成22年	全体事業費 (下段当初)	568百万円 (負担区分: 国 1/2、県 1/2)																												
		平成13年～平成22年		450百万円 (負担区分: 国 1/2、県 1/2)																												
事業目的及び内容		<p>①場所 三重県三重郡菰野町 千草 地内</p> <p>②事業目的 本事業は、庵座谷川において砂防堰堤を設置して土石流による災害を未然に防ぐことを目的とした。</p> <p>③被害想定 崩壊地や溪床からの土砂生産による土石流氾濫被害を想定した。</p> <p>④保全対象 人家3戸、キャンプ場、県道朝明溪谷線 140m、橋梁1橋</p> <p>⑤事業内容、事業量 堰堤工: 2基 (鋼製透過型: 1基、不透過型: 1基)</p>																														
1・事業の効果		<p>① 対策後の流域の状況 事業による施設完成後の平成23年9月に台風12号により最大日雨量310mm、総雨量391mmの降雨があり、平成25年9月には、最大日雨量199mm、総雨量282mmの降雨があったが、庵座谷川流域からの土石流発生等による保全対象への被害はなかった。</p> <p>② 費用対効果</p> <table border="1" data-bbox="274 1227 1348 1467"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>当初</th> <th>今回評価時</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用</td> <td>建設費</td> <td rowspan="3">分析は行って いません。</td> <td>8.14億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>0.23億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8.37億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>総便益</td> <td></td> <td>9.25億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益分析結果(B/C)</td> <td></td> <td>1.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③ ②以外のその他の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山地森林被害抑止効果 溪流空間を保全する効果が見込まれる。</li> <li>■ 交通途絶による機会損失の防止 (県道朝明溪谷線) 県道朝明溪谷線の安全性が確保され、交通途絶による朝明溪谷線沿線の施設へ行く機会損失が防止される。</li> <li>■ 波及的効果 人家の安全性が向上し、生活する地域住民の不安感が軽減される。</li> </ul>					区分		当初	今回評価時	備考	費用	建設費	分析は行って いません。	8.14億円		維持管理費	0.23億円		合計	8.37億円		効果	総便益		9.25億円		費用便益分析結果(B/C)			1.1	
区分		当初	今回評価時	備考																												
費用	建設費	分析は行って いません。	8.14億円																													
	維持管理費		0.23億円																													
	合計		8.37億円																													
効果	総便益		9.25億円																													
費用便益分析結果(B/C)			1.1																													
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<p>現地の発生材を利用して、堰堤下流の流路工や護岸 (巨石積) を施工した。</p>																														

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>朝明川上流域には朝明溪谷、キャンプ場があり、日帰りも宿泊も可能な人気のレジャー施設となっている。近年のアウトドア志向の高まりにより、豊かな自然を持つこの地域の人気、価値はますます高まっている。庵座谷川で発生する土石流により県道朝明溪谷線が途絶すると、長期間に渡って上流のレジャー施設が利用できなくなるおそれがある。</p> <p>このことから、計画策定時と比べ、当地区での土石流対策の重要性が高くなっている。</p>
4・県民の意見	<p>①県民の意見の収集方法  対象者：菰野町朝明溪谷の施設利用客  調査方法：アンケート方式      有効回答数：95件      実施日：平成27年7月12日（日）</p> <p>②アンケートの目的  アンケートは、砂防事業の認知度、事業を実施したことによる安心感などを調査し、今後の土砂災害対策に県民の意見を反映することを目的とした。</p> <p>③アンケート結果</p> <p>a) 土石流対策の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県が土砂災害対策を行っていることを60%が知っていた回答している。</li> <li>・ 朝明溪谷が土石流危険渓流であることを60%が知らなかったと回答している。</li> </ul> <p>b) 土石流対策を実施したことによる安心感</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 62%が砂防堰堤の工事により安心して利用できるようになったと回答しており、19%があまりそうは思わない、そう思わないと回答している。</li> <li>・ あまりそうは思わない、思わないと回答した理由のうち35%が工事の効果が分かり難いからと回答している。</li> </ul> <p>c) 今後の土砂災害対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 89%が土砂崩れなどの災害を防ぐ事業を必要であると回答している。</li> <li>・ 64%がハード対策とソフト対策を並行して進めるべきであると回答している。</li> </ul>
5・再評価の経緯	<p>再評価は実施していない。</p>
6・今後の課題等	<p>利用者アンケートの結果、来訪者の割合は県内、県外ではほぼ半数の割合であるが、地元における避難場所等は認識しているものの来訪した観光地における土石災害危険箇所の認知度は高くないことがわかった。その一方で、ハードソフト両面の必要性を感じており今後も県が土砂災害対策事業を実施していくことが望まれている。</p> <p>土石流対策工事を実施したことにより安心感が向上したとの回答がある一方、そう思わない回答もあり、工事の効果が分かり難いことを理由に挙げている。</p> <p>このように、県が実施している土砂災害対策工事实施による事業効果については、地域外からの来訪者に対しても周知度がまだ低いことがわかった。</p> <p>今後は、危険箇所等がわからないとの意見があることから、ソフト対策として、市町の防災対策部局、観光施設管理者とも連携し、地元住民だけでなく来訪者にも危険箇所の把握や避難態勢を円滑に行えるように支援していくことも重要であると考えられる。また、事業実施の際に実施状況や事業効果についても広く周知を図る工夫をしていく必要があると考えられる。</p>